

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 12 日作成)

委員会名	異種構造接合小委員会	主 査 名：西村泰志
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鋼コンクリート合成構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：三谷 勲
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>本小委員会は、2003 年 3 月終了した「鋼コンクリート合成構造接合小委員会」の活動を引き継ぎ、理論的に統一的な考えに基づいて、異種構造部材で構成される接合部の設計法を構築し、将来的に鋼コンクリート合成構造接合部設計指針の出版を視野においた技術資料の作成を目的とする。初年度は、鋼コンクリート合成構造接合小委員会報告書を再検討し、その充実に努める。また、応力伝達機構および抵抗機構に基づく統一的な設計式の構築を試みる。2004 年度は、接合部設計指針(案)を視野においた資料集を作成する。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>主査：西村泰志(大阪工業大学) 幹事：宮内靖昌(竹中工務店) 委員：川口 淳(三重大学)・北野敦則(北海道大学)・澤本佳和(鹿島建設)・鈴木英之(安藤建設)・高木潤一(東北大学)・筒井茂行(日本設計)・中澤春生(清水建設)・中原浩之(鹿児島大学)・馬場 望(大阪工業大学)</p>	
設置 WG (WG 名:目的)		
2003 年度予算	250,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>第 1 回小委員会：2003 年 9 月 5 日・8 名 第 2 回小委員会：2004 年 3 月 10 日・7 名 なお、本小委員会では、接合部を直交、直列および並列する接合部に分類し、それぞれの接合部担当グループを設け、日常的にはこれらのグループ内でメールによって意見調整している。小委員会は、技術資料集作成のための全体調整、他のグループに対する意見調整の場としている。</p>
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p><u>成果の具体的内容</u> 2003 年 3 月終了した鋼コンクリート合成構造接合小委員会報告書「鋼コンクリート合成構造接合部に関する研究・設計と施工の現状」、2003 年 9 月大会 PD「鋼コンクリート合成構造の合理的な接合法を探る」での意見を踏まえ、資料の充実に努めた。また、鋼コンクリート合成構造以外のハイブリッド構造に関する研究の現状についての資料整理を行なった。</p> <p><u>成果の価値</u> 本資料集は、理論的な力学モデルに立脚したものであり、本技術資料集を用いて、あらゆる鋼コンクリート合成構造接合部の設計法を行なうことが可能であり、技術的・学術的に非常に有用である。</p> <p><u>ホームページ等での公開の有無</u> 下記ホームページに委員会議事録、活動方針等が掲載されている。</p> <p>委員会 HP アドレス：http://www.kobe-u.ac.jp/sccs/AIJ-SCCS/Subcommittees-j.html</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>現時点では、接合部の設計式の構築には至っていないが、技術資料の整備に関しては十分な成果が得られたと確信する。</p>
その他評価すべき事項	<p>小委員は、年齢的に若い委員構成となっているので、非常に活発な意見交換がなされている。</p>